

処理対象量の見直しについて (平成27年7月)

1. 豊島廃棄物等の処理対象量の推計結果

- 平成25年度末の見直しでは、体積は約63万8千 m^3 、重量は約91万9千トンでした。
- 平成26年度末の推計では、直下汚染土壌と想定していたものが廃棄物等として掘削されていることなどから減少したため、**処理対象量は、体積が1万2千 m^3 、重量は1万2千トン程度減少し、約90万7千トンの見込み**となりました。
- 一方で、**直下汚染土壌を除く廃棄物等については、平成25年度の推計より体積が約4千 m^3 増加し、重量は、約1万4千トン多い約86万6千トンとなる見込み**です。
- これは、体積の増加に加え、平成26年度に処理した廃棄物等の密度が1 m^3 当たり1.48トンと、平成25年度の推計に用いた1.43トンから高くなり、今後も同様の傾向が続くと考えられるためです。

【今回の推計結果】(平成27年3月現在)

項目	体積(千 m^3)	重量(千トン)	密度(トン/ m^3)
処理対象量	626 (638)	907 (919)	—
廃棄物等	602 (598)	866 (852)	—
処理済量	513	734	1.43 (1.43)
残存量	89	132	1.48 (1.43)
直下汚染土壌	24 (40)	41 (67)	—
処理済量	4	7	1.77 (1.68)
残存量	20	34	

※括弧内の数字は、前回推計時(平成26年3月現在)のものである。

2. 処理期間

- 直島で焼却・溶融対象となる廃棄物等が増え、また廃棄物等に占める土壌の割合が高くなるものの、処理の効率化を図ることで、**平成29年3月に廃棄物等の処理が完了する見込み**です。

※今回の調査結果による処理対象量等については、現段階での推計であり、掘削が完了しないと量は確定しないため、今後増減する可能性があります。

3. 今後の対応

- 県では、今後、次のとおり対応します。

- ①引き続き、測量調査を実施し、年度末の残存量について、体積ベースでも把握するなど、より正確な進行管理に努めます。
- ②**今年度から新たな処理量アップ対策として酸素富化(溶融炉内の酸素濃度を上昇させる取組み)を実施**するとともに、引き続き、豊島廃棄物等管理委員会の指導・助言を得ながら処理に努めます。